

旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
2025年10月12日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 祷		一 同
讃 美※	聖歌294「静かに待てわが霊よ」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	聖歌418「あなたの罪あやまちは」	一 同
教会学校	絵本「私について来なさい」	牧 師
讃 美	聖歌586「いかにけがれたる」	一 同
聖書朗読	使徒行伝19:8-10	
奨 励	使徒行伝の福音(第68回)	牧 師
主 題	「聖霊による喜怒哀楽」	
讃 美	聖歌614「主の愛の汝が内に」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	聖歌376「父、御子、御霊の」	一 同
祝 祷※		牧 師
来週の箇所	イザヤ書第34章	

※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



《今週の歩み》

10/12(日) 聖日礼拝
/13(月) **スポーツの日**
/14(火)
/15(水)
/16(木) 8:30 OBSチャペル、10: 聖研
/17(金) 10-12: OBSクラブ
/18(土) 13-16 子供オプンハウス



《祈りの課題》

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に来れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

良書ハイライト

「置かれた場所で咲く」

渡辺和子著「置かれた場所で咲きなさい」(幻冬舎文庫, 2012)

初めての土地、思いがけない役職、未経験の事柄の連続、それは私が当初考えていた修道生活とは、あまりにもかけはなれていて、私はいつの間にか“**くない族**”になっていました。「あいさつしてくれない」、こんなに苦労しているのに「ねぎらってくれない」「わかってくれない」。自信を喪失し、修道院を出ようかとまで思いつめた私に、一人の宣教師が一つの短い英語の詩を渡してくれました。その詩の冒頭の一行、それが「神が置かれたところで咲きなさい。 **Bloom where God has planted you.**」という言葉だったのです。岡山という土地に置かれ、学長という風当たりの強い立場に置かれ、四苦八苦している私を見るに見かねて、くださったのでしょうか。

私は変わりました。そうだ。置かれた場に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、私は環境の奴隷でしかない。人間と生まれたからには、どんな所に置かれても、そこで環境の主人となり自分の花を咲かせようと決心することが出来ました。それは「私が変わる」ことによるのみ可能でした。

いただいた詩は、「置かれたところで咲きなさい」の後に続けて、こう書かれていました。「咲くということは、仕方がないと諦めることではありません。それは自分が笑顔で幸せに生き、周囲の人々も幸せにすることによって、神が、あなたをここにお植えになったのは間違いでなかったと、証明することなのです。」

私は、かくて“くない族”の自分と訣別しました。私から先に学生にあいさつし、ほほえみかけ、お礼を言う人になったのです。そうしたら不思議なことに、教職員も学生も皆、明るくなり優しくなってくれました。「置かれたところで咲く」この生き方は、私だけでなく学生、卒業生たちにも波及しました。…結婚しても、就職しても、子育てをしても、「こんなはずじゃなかった」と思うことが、次から次に出てきます。そんな時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。

どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。…多くのことを胸に納め、花束にして神に捧げるためには、その材料が必要です。ですから、与えられる物事の一つひとつを、ありがたく両手でいただき、自分しか作れない花束にして、笑顔で、神に捧げたいと思っています。